

ボジョレーの夕べ

河野万里子先生とフランスの愛を語ろう

フランスは“恋愛大国”“愛”の国などとも呼ばれます。じつは、あのサン=テグジュペリにも、複数の女性の存在がありました。そして彼女たちがいたからこそ、『星の王子さま』のあの挿絵が、あのせりふが誕生したのです。また、やはりよく知られたコレットの『青い麦』に登場する10代の幼なじみ2人がくり広げる恋は、日本人の私たちにはとても早熟に思えますが——。この2点を中心に、フランス小説の“愛”や女性の生き方をはじめ、新訳の際のこぼれ話などもご紹介します。16日0時に解禁される今年のヌーボーをかたわらに、いつも以上にのびやかで楽しいひとときになるよう、お話しできればと思います。

河野万里子

日時：2017年11月18日（土）17：00～19：00

会場：日本出版クラブ会館 3F パピロス レストラン
（新宿区袋町6番地 TEL 03-3260-5271）

参加費：3,000円（当日支払い）*ボジョレーヌーボー、おつまみ付

定員：30名（先着順、定員にて締切）

河野万里子氏 略歴



じつは「大阪で生まれた女」だ（昔そういう歌があった）。父の転勤で、その後も神戸、札幌と引っ越し、小学校へあがる直前に東京へ。なじんだ土地や友だちと別れるのが寂しくて、ずっと一緒にいられる絵本や本の登場人物に気持ちを寄せる子どもになった。小学校では、日記を習慣づけてくれた5年のときの先生が好きだったのに、3学期に今度は横浜へ。環境の変化や、その後の長い反抗期をとおして、日記に気持ちをぶつけたり託したりするうちに、文章を書くことは心の支えになると知る。

もっとも、当時の最大関心事はピアノ。ピアニストになるつもりで、スポ根マンガみたいなレッスンにもくじけなかったが、なぜか音楽の世界への扉は開けなかった。もっと広い世界を知りたくなったこともあり、けっきょく上智大学外国語学部フランス語学科へ。

卒業後は日産自動車の欧州部で、現地と毎日英語でやり取りしながら、仕事の仕方というものを学ぶ。やがて結婚して渡米、緑豊かなコーネル大学で、大学院留学生のための英語の単位を取ったり音楽学部の講義を聴講したりして、1年過ごす。帰国したのは曇天と雨の6月。日本のなにもかもが小さく暗く見えて、引きこもるように翻訳の通信教育をはじめた。

というわけだったので、1988年、29歳になっていたとき、受講の仕上げにと応募した「翻訳の世界」誌の「第13回翻訳奨励賞」で、いきなり「最優秀賞に決まりました」と電話がかかってきたときには、ひっくり返りそうになった。さらに、審査員の一人だった出版社の方からわたされた原書が、学生時代あこがれながら読んだフランソワーズ・サガンの新作で、膝が震えたが、覚悟を決めるしなく、必死で翻訳について考え、勉強し、試行錯誤した。

やがて編集者とのやりとりのなかで、自分はピアノをとおして表現や感性の鍛錬をしていたのかもしれないと気づく。原書は楽譜に似ている。翻訳は曲の解釈や演奏に似ている。

しかしその編集者との1年近いやりとりが終わっても、連絡のないまま、さらにもう1年が過ぎ……ようやく本の形になったとき、私には生後1か月の赤んぼうがいたのだ。

おかげでそれからは、あっという間に今日に至ったという気がする。

思い返せば1994年、文教大学短期大学部で翻訳入門講座を1年担当。

この10年ほどは、上智大学文学部英文学科で年に2回か4回、外国語学部では1回、非常勤講師をつとめ、日本ペンクラブとJBBY（日本国際児童図書評議会）では子どもの本に関わる活動もおこなっている。



おもな訳書 (☆は新訳)

フィクション

- 『満潮』(メアリー・ウェズレー 講談社)
『愛は束縛』(フランソワーズ・サガン 新潮社)
『フィッツジェラルドをめざした男』(デイヴィッド・ハンドラー 講談社文庫)
『ストレンジャー・フォー・クリスマス』(キャロル・リン・ピアソン 飛鳥新社)
『逃げ道』(フランソワーズ・サガン 新潮社)
『カモメに飛ぶことを教えた猫』(ルイス・セプルベダ 白水社)
『星の王子さま』(サン＝テグジュペリ 新潮文庫) ☆
『悲しみよ こんにちは』(フランソワーズ・サガン 新潮文庫) ☆
『あたしのママ』(ジュスティーン・レヴィ ディスカヴァー・トゥエンティワン)
『青い麦』(シドニー＝ガブリエル・コレット 光文社新訳文庫) ☆
『風にそよぐ草』(クリスチャン・ガイイ 集英社文庫)

ノンフィクション (手記・評伝)

- 『自閉症だったわたしへ』(ドナ・ウィリアムズ 新潮社)
『潜水服は蝶の夢を見る』(ジャン＝ドミニック・ボービー 講談社)
『キュリー夫人伝』(エーヴ・キュリー 白水社) ☆
『どこ行くの、パパ?』(ジャン＝ルイ・フルニエ 白水社)
『毎日が天国～自閉症だったわたしへ』(ドナ・ウィリアムズ 明石書店)
『いのちは贈りもの～ホロコーストを生きのびて』(フランシーヌ・クリストフ 岩崎書店)

児童書・グラフィックノベル

- 『南仏の光、イタリアの風』(ヤン・ナッシンベンネ 太平社)
『ザッカーリー・ビーヴァーが町に来た日』(キンバリー・ウィリス・ホルト 白水社)
『水曜日のうそ』(クリスチャン・グルニエ 講談社)
『オズの魔法使い』(ライマン・フランク・ボーム 新潮文庫) ☆
『ジェーンとキツネとわたし』(ブリット/アルスノー 西村書店)
『青い目の人形物語Ⅰ～平和への願い アメリカ編』(シャーリー・パレントー 岩崎書店)
『青い目の人形物語Ⅱ～希望の人形 日本編』(シャーリー・パレントー 岩崎書店)

絵本

- 『だいすきっていいたくて』シリーズ全12冊(ノラック/デュボワ ほるぷ出版)
『レ・ミゼラブル～ファンティーヌとコゼット』(ユゴー/ルフォール/デュボワ 小峰書店)
『リンゴのたねをまいたおひめさま』(ジェーン・レイ 徳間書店)
『ちいさなあなたがねむる夜』(ペンジウォル/アルスノー 西村書店)

著書

- 『赤毛のアンの翻訳レッスン』(バベル・プレス)
『ロベ先生とはじめてのえいご』(クロード・ロベルジュ 小川裕花・共著 小峰書店)

申し込み方法

下記「洋書の森」宛に

- ①参加される方のお名前 ②洋書の森会員番号(会員の方) ③連絡先電話番号 ④メールアドレスを明記して
“11/18 参加希望”とメールして下さい。折り返し事務局より“受け付けました”と返信いたします。
数日たっても返信のない場合はお手数ですが、お電話等でお問い合わせ下さい。

(金曜夕方～日曜・祝日にお申し込みの方には返信が休日明けとなりますのでご了承下さい。)

一般財団法人 日本出版クラブ「洋書の森」事務局 (土、日、祝日を除く 9時～19時)

〒162-0828 東京都新宿区袋町6番地
TEL 03-3260-5271
FAX 03-3267-6095
Mail yousho@shuppan-club.jp